

第 2 章「子どもの発達」改定のための検討・ポイント

白梅学園大学 民秋 言

1. 現行 2 章「子どもの発達」並びに 3～10 章「発達の主な特徴」を付き合わせ、まとめる。
2. 現行 1 章に示す「発達過程区分」を改訂 2 章「子どもの発達」の中核として導入する。
3. 「発達過程区分」については、現行どおり 6 ヶ月未満から 6 歳まで、8 つの区分（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ）を設定する。（図参照）
4. 発達の連続性を重視する。園生活の積み重ね及び生活の場（園と家庭・地域）の連続性に注目する。
5. 「入園から修了にいたるまでの長期的な視野をもって」、「修了までに育つことが期待される」発達（育ち）として把握する。
6. 「クラス・グループ全員」の基準ではなく、「一人ひとりの発達過程」として捉える。
7. 養護＝生命の保持と情緒の安定に支えられて、心情・意欲・態度というねらい、五領域にみる内容が保障されるよう「発達」を考える。

図 1 保育内容の構造（模式図）

